



全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 竹内洋司／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。
会員の皆さんが、輝かしい年を迎えられたことを心より
お喜び申し上げます。

日ごろより、全消協会員の皆様、そして献身的に職務を
遂行されている消防職員の皆様の温かいご理解と、そして
力強いご支援に、心から感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返ると、大きな変革の年であったとい
えます。2月に開催した「各県代表者会議」では、総務省

消防庁の加藤消防・救急課長から講演をいただき、また、
10月には林崎長官と面会し職場の実情をお話しすることが
できました。これらは全消協発足来初めてのことであり、
私たちが現場の最前線で働く消防職員の思いを発信してき
た成果であると言えます。

3月には、一時途絶えていた消防議員懇談会が、「自治
労消防政策議員懇談会」として、衆参あわせ110人
(2019年12月現在)の国会議員の賛同のもと設立され
ました。早速、総会において消防職場

を取り巻く現状について訴え、多くの
理解を得ることができました。また、
議員懇の事務局長である武内則男衆議
院議員にご尽力いただき、7月と12月
に総務省消防庁に対して「消防行政の
充実強化に関する要望書」を提出し、
我々現場で働く職員の生の声を届ける
ことができました(関連記事は2面)。

さらに、9月に開催された「PSI
アジア太平洋地域総会」には、村上ほ
か3人が代議員として参加し、それぞ
れが日本における消防職場の現状を力
強く訴え、全消協代表者としての責務
を全うすることができました(関連記
事は2面)。

こうした取り組みをさらに推進し、
より良い消防行政の確立と職員の労働
環境を改善していくためには、労使双
方が責任を持ち対等な立場で協議する

ことが必要であり、そのための重要なものが労働基本権で
す。昨年1月からは、第107回ILO総会に基づき「ILO
議長集約に係る定期協議」が開始され、全消協も自治
労と共に主体的に参画しています。これまで政府側と計4
回の協議を行ってきましたが、消防職員の団結権は未だ解
決をみていません。

こうした現状を踏まえ、12月には、神津連合会長と会談
を行いました。会談では、連合が日本のナショナルセンター
として、消防職員の団結権を含む公務員の労働基本権問題
解決にむけILO(国際労働機関)対策等に尽力いただい
ていることや、連合シンポジウムにおいて消防問題を取り
上げていただいたことを踏まえ、改めて今後の団結権回復
にむけた対応をお願いしたところです。また、昨今のパワ
ハラ報道を含む消防職場の実態と課題、全消協としての取
り組みをお伝えし、意見交換も行いました。今後、今まで
以上に自治労・連合や関係団体と、より強固な関係を構築
するとともに、PSI活動等を通じて、グローバルスタン
ダードである、すべての公務労働者の労働基本権回復にむ
けた取り組みを継続し、働く者の尊厳を守るような活動
に取り組みしていきます。こうした取り組みのためには、現
場職員の声をもっと大きなものへとする必要があります。
8月に開催した第43回定期総会では、活動方針の重要課題
として「組織強化・拡大」の取り組みを進めることを確認
しました。あらゆる取り組みの前提として、まずは、働き
かけを含む自らの組織の強化・拡大を二層推進し、未組織
消防への働きかけを含む一人でも多くの仲間を集集してい
ただき、国民が安全に安心して生活するための消防行政確
立と命を守るはずの消防職員が、自らの命を絶つというこ
とを絶対に阻止し、明るく働き甲斐のある職場づくりをめ
ざしていきたいと思っております。

全国の多くの仲間の全消協への結果をお願いするととも
に、各地でのさらなる取り組み強化、そして会員の皆さん
とご家族のご多幸を心より祈念し、年頭のご挨拶とさせて
いただきます。

全国消防職員協議会

会長 村上直樹



■ 団結権回復へ 神津連合会長との会談を実施

12月20日、連合本部を訪問し神津連合会長と会談を行い、全消協からは村上会長以下四役が参加した。

全消協からは、この間のILO対策に関して御礼を述べ、引き続きの対応をお願いするとともに、今後も主力で取り組む決意を伝えた。また、消防職場の現状や頻発するハラスメントに関する実情を述べ、この間の消防庁要請などの取り組みを踏まえ、より良い消防行政構築に向けて活動を強化していく旨も伝えた。

神津会長からは、全消協の思いも踏まえて団結権回復にむけ対応をはかることや、昨今のハラスメント報道を受け、全消協が消防職員のセーフティネットとして引き続き活動してほしいとの言葉をいただいた。また、現場から声を上げ続けることの必要性についても言及された。

また、消防は女性職員が少なく、職場でもセクハラをはじめさまざまな課題があることに触れ、世間にも実情を訴え環境を改善するために連合の諸集会などでも取り上げてほしいと要請した。



最後に、今後もこうした機会を設けていただくことを要請し、この日の会談を終えた。



全消協は1977年の結成以降、消防職員の自主組織としてより良い職場環境



■ 現場の意見を踏まえた消防行政 にむけ消防庁へ要望書を提出

12月3日、総務省消防庁に対し、消防行政の充実強化に関する要望書を提出した。

全消協からは村上会長以下四役が出席し、自治労からは大嶋強化拡大局長、自治労消防政策議員懇話会事務局長である武内則男衆議院議員にも同席いただいた。総務省消防庁からは、川島消防・救急課長ほか3人が出席した。

冒頭、要望書を手交したのち、①緊急消防援助活動等(緊急消防援助隊員の出動手当や旅費、日当等で格差が生じることのないよう助言、登録目標隊数の増隊に伴い、派遣元消防本部の消防力が低下しないよう必要人員の確保など)、②消防行政の充実と労働安全衛生体制の構築(消防力の整備指針に示した必要な人員を充足する財源の確保、消防防災ヘリコプターの安全運航体制の推進および防災航空隊員の安全確保の推進など)、③働きやすい職場環境の整備(ハラスメントの撲滅にむけた定期的なアンケート調査の実施、より実態に即した対応策、女性消防職員の採用、職域拡大の推進、設備整備にむけた消防本部への助言など)、④広域化(職員の視点・意見を踏まえ課題を解消するよう助言など)、⑤その他労働条件に関する事項(定年の引き上げを見据え、消防における高齢層の働き方の検討など)、⑥消防職員との協議の継続・推進

今後の継続的な協議、について要望を出した。

これに対し川島消防・救急課長は、それぞれの項目について現状や考え方を総務省消防庁としての取り組み内容などについて言及するとともに、さまざまに取り組みを行うにあたって全消協からも情報提供や意見をいただきたいと述べた。

また、昨今頻発するハワハラについて職場の現状や全消協の調査等を踏まえ、より良い消防行政や人材確保、さらには女性活躍の観点からも対応が必要であると指摘したことに、総務省消防庁も「ハラスメントは、相手の人格を侵害する断じて許されない行為であり、あつてはならない行為」とした上で、必要な機能強化・整備を行うことの認識を示した。

最後に、今後も意見交換・協議を行うことを確認し、この日の行動を終えた。全消協は引き続き、こうした要請の場で職場実態を伝え、全国の消防職場の改善にむけて取り組みを進めていく。

■ 第14回 PPS-アジア太平洋地域 総会 (APPRECION) 報告

9月17日〜20日、インドネシア・バリにおいて「第14回 PPS-アジア太平洋地域総会 (APPRECION)」が開催され、全消協から村上会長、仲野前特別幹事、吉田前ユース部代表の3人が参加した。

APPRECIONは5年に1度、PSI世界大会の後に開催され、今後5年間のアジア太平洋地域の活動方針を決定する重要な会議として位置づけられている。

まず、9月17日は前段の会議として「若年労働者フォーラム」が開催され、吉田前ユース部代表が日本の消防職場の現状と、全消協ユース部が若年層会員のスキルアップを目的に「ユース・ポロセミナー」を開催していること、LGBTに関する課題には、言葉が日本国内で知られる以前から取り組んでいることを報告し、高い評価を得られた。

また、「若年労働者の連帯の夕べ」では、日本代表団の先頭に立ち、他国参加者と積極的に交流をはかり、若年労働者全体で世界を変える宣言に繋げることができた。その結果として、9月20日早朝には「気候変動ストライキ」を行い、日本では取り組みが少ない気候変動の課題についても、全消協で関心を深める必要性を感じた。

9月18日〜20日は本総会が開催され、「労働者の未来・公共サービスの未来・力の未来」のテーマに沿った各参加機関の報告や分科会が行われた。その中で、村上会長は労働基本権がない日本の消防職場でハラスメントが頻発している現状を報告し、全消協として、国際連帯活動によりPSI、ILOなどの関係組織と連帯して労働基本権の回復をめざしていることをスピーチし、会場から多くの賛同が得られた。

さらに分科会では、「緊急サービス労働者の権利：日本の消防隊員の経験」をテーマに、仲野前特別幹事が経過した現状を発表した。アニー・ヘロンPSI-NK委員長からは、「緊急サービス労働者におけるディーセントワークに関するILOの指針」が報告され、2018年のPES会議に日本の消防職員(竹内事務局長がPSI-JCを代表し出席)が参加したこと、とても有意義であり、大きな意味を持つことであると述べられた。

これまでのPSIを通じた国際連帯活動で、全消協が追求する課題や、活動の認知度は格段に向上しており、激励の言葉も多数いただいた。今後も国内消防の組織強化・拡大を含め、PSI-JCに結集する他産別や、各国の組織と連帯した活動が団結権回復に必要な不可欠であると実感した。

特別幹事 吉田真也

第50回全消協労働講座

各講座で関係法令等を学び 活発なグループ討議を行う

2019年12月20日(金)、21日(土)の2日間、東京・自治労会館で開催し、全国から65単協74人(未組織消防職場3人)が集まった。

冒頭、村上会長が、「2日間という限られた時間ではあるが、各講座で学び、交流を深め、今後の協議会活動に繋げてほしい」と主催者挨拶を述べた。労働講座は、協議会活動に必要な基本知識を学ぶ研修ではあるが、組織強化・拡大をはじめ消防財政、賃金・労働条件、国際連帯・PSI・男女平等、労働安全衛生など職務に通ずる事項も多く、参加者は熱心に受講するとともにグループ討議では活発な意見交換が行われた。

最後に須藤副会長が、「職場では問題が山積しているが、仲間



さまざまな活動を共有できる場を提供すべく頑張りたい。

小野北海道ブロック幹事

グループ討議では、協議会活動が形骸化している、当局からの圧力により思うような活動ができないなど、さまざまな悩みが出されており、協議会の成り立ちを若い世代へ伝承するとともに組織強化をはかることの重要性を感じた。課題解決にむけ皆と一緒に助け合い、前進していくために全消協を活用していただきたい。

講座II【財政】

斉藤北信ブロック幹事

今回は消防財政のごく一部をお伝えした。今後、少子高齢化、人口減少、気候変動を含む災害の複雑・多様化など、消防行政を取り巻く情勢が大きく変化することが予想され、職務遂行にあたっての不安要素が絶えない。また、消防職場における課題の根底にあるものの一つも「財政」だ。この機会に消防財政に興味を持ち、今後の協議会活動に活かしていただきたい。

講座III【賃金・労働条件】

高木東北ブロック幹事

消防職員一人ひとりがやりがいや充実感を持ち、働きやすい職場環境を構築するためには、賃金・労働条件・労働時間等の不均衡な取り扱いを解消することが重要だ。グループ討議によって、各消防本部の賃金労働条件に差異が生じている実態を感じ取ってもらえたと

思う。この講座が、改善にむけての第一歩となることを願う。

右門東海ブロック幹事

賃金・労働条件について学ぶことに抵抗がある職員は多いと思うが、今回の講義を聞き、他の本部との違いを知ること、自分たちの職場を理解し、労働環境を良くすべきことの大切さに気付いたのではないか。

今回の講座を各単協で共有し、職場環境の改善の一歩としていただきたい。

講座IV【国際連帯・PSI・男女平等】

山田近畿ブロック幹事

改めて国際連帯やPSI活動を伝えることの難しさを痛感した。主体的に考えてもらうため、労働基本権回復後のあり方についてのグループ討議を取り入れたが、良い点とともに不安要素も多く出された。

全消協は2007年にPSIに加盟し、今やっと活動が実り出したところだが、世界には団結権を有し労使で良い消防行政を行っている例も多くある。国際連帯活動は労働基本権回復のためとの主眼

になりがちだが、将来にむけて内外の他機関との連帯活動を継続していくことの重要性を感じることもできた。

山端四国ブロック幹事

男女平等参画を担当して消防職場での女性職員の採用が進んでいない実態について説明した。採用に関して協議会として参画していくことは難しい面もあるが、男女が共に働きやすい職場環境を創造するのは協議会活動だと思ふ。今まで以上にお互いを理解し尊重しあえる職場にしていく必要があると感じた。

講座V【労働安全衛生】

田立関東甲ブロック幹事

今後を支える世代に必要な知識であり、皆さんに考えていただいたのがメンタルヘルスである。苦手を減らし、きつかけとなるようにしたいと考えて講座を行った。さらにロープ高所作業についての条項が新設されたことからフルハーネス型安全帯についても提示させてもらったが、今後もより知識を深めていただけたらと思う。

ユース部

永楽ユース部代表

第5期ユース部は全幹事が総入替となり、勉強のため労働講座へ



全員で参加させていただいた。参加者の方々と同じテーブルで貴重な意見交換や模擬オルグを行い、素晴らしい経験ができた。この経験を3月に開催予定の第3回ユースステップセミナーへ活かして、全国のユース会員の方々と共有できるように尽くしていく。

女性連絡会

長谷川女性連絡会代表

『女性連絡会』の名前を知っていても、活動内容を知らない会員は少なくない。活動報告でFacebookを周知したところ、アクセス数が約3倍となるなど効果を実感した。今後も継続して広報に努め、女性のための会ではなく、男女ともに働きやすい環境をつくるための会であることを知ってもらい、さらなる内容の充実と会の発展に繋げたい。

災害ボランティア報告

新たな『絆』

須坂市消防職員協議会

2019年10月、全国的に甚大な被害をもたらした台風19号豪雨災害。私たち須坂市消防協の管轄地域も水害による被害を受けた。

管轄内には千曲川が流れており氾濫が頻発し、冠水相次ぎ、農業へも大きな被害が出た。皆さんも長野市穂保地区の堤防が決壊し、新幹線の車両が水に浸かっている映像をテレビでご覧になったかと思うが、私たちの管轄地域は千曲川を挟んだ対岸となる。

当日は水防活動や救助活動など災害対応もしたが、災害が過ぎるとすぐに復興活動が始まる。自分たちの地域のため、協議会としてすぐにボランティアを募り、住宅の泥出しや清掃を行った。そこへ、鈴鹿市消防から「ボランティアを手伝わせてほしい」との申し出があり、小布施町にて合同ボランティアを行うこととなった。



内容は、災害廃棄物(ゴミ)の分別や移動、ゴミ収集車への搬入という環境的にも体力的にもきつい活動であったが皆さんがあまり休憩も取らず黙々と活動している姿が印象的であった。このような作業も地域の復興に寄与しており、本当に大事な活動と実感し、山のように積まれたゴミが、数日で片づく風景を目の当たりにし、ひとりのできることは少ないが、大勢で行えばすごい力になる、まさに復興にはマンパワーが必要だと改めて思い知らされた。

翌週からは亀山市消防の方々にも参加していただき、計8日間で鈴鹿市56人、亀山市13人の会員と一緒に汗を流し活動させていただいた。同じ全消協の仲間から声を掛けていただき、片道6時間をかけて来てくれたバイタリティーに感銘を受けると同時に全国の仲間の繋がりの良さを再認識することができた。そして、新たな絆ができたこと嬉しく思う。この『絆』を大切に、今後とも全消協活動を行っていききたいと思った。

結びに、川北会長はじめ鈴鹿市消防協の皆様、亀山市消防協の皆様、に感謝の意を表すとともに、全

国で被災された皆様の一日でも早い復興をお祈りする。

『ONE TEAM』

新潟県消防職員協議会 事務局長 樺澤隼人

いわずと知れた今年日本中を熱狂させたラグビー日本代表のスローガンだ。東日本大震災の時には「絆」という言葉が日本中を駆け巡った。どちらの言葉にも共通するのは「個」ではなく「繋がり」である。今年も多くの自然災害が日本列島を襲い、台風19号は広範囲に大きな爪痕を残した。報道で目にする被害状況はほんの一部であり、支援の手が届きづらい地域も多い。自然災害の被災経験があるからわかることだ。

今回、私の声掛けに新潟県内3単協の仲間が賛同してくれSNSで情報収集し福島県と長野県でボランティア活動を行った。百聞は一見に如かずだ。水害は水が引いてからも大変だ。へドロの臭いにとこまでも入り込む泥。水に浸かったものはすべて使い物にならない。



火災と一緒に思い出さずすべて流れてしまう。改めて災害の恐ろしさを痛感した。災害ボランティアに行ったことない人は一度でいい、行ける時でいいから行ってほしい。何といわれよう、しないよりました。そこで得るもの、感じるものを協議会活動、そして職務に活かしてもらいたい。

第3回女性交流会

女性連絡会代表 長谷川亜純

2019年12月21日 場所：東京・自治労会館

第50回労働講座終了後、全消協幹事を含め女性8人、男性6人で、「消防職場における自分の未来予想図」と題し、意見交換を行った。1の質問に対し、皆の意見を聞くことができたのは、少人数だからこそ。さらに、男性目線の意見が出たことは非常に有意義であった。今後も消防職場には確実に女性が増える。男女ともに働きやすい職場を作るには双方の理解が必要不可欠であると改めて感じた。



半鐘の乙女

中国ブロック幹事として2期目に入ってから数ヶ月が過ぎようとしています。幹事になったのは、右も左もわからず不安だらけでしたが、全消協でよき友に出会い、地元尾道の仲間をはじめ多くの方々に支えられ何とかここまでやってこられました。感謝してもしきれません。幹事になってからずっと考えていることがあります。それは、「当たり前とはなにか?」についてです。朝起きて、仕事に行き、仕事が終わって無事に家に帰れる。整った職場環境の中、みんなが楽しく仕事ができる。公私ともに充実した生活がおくれる。これって当たり前のことと思いませんか? 全国にはこういったことが当たり前ではない職場も少なくありません。外に目をむけてみてください。全消協が発足して40年以上が経過し、協議会のある消防本部では当時と比べ職場環境は良くなっているかと思えます。そんな中、よく協議会の必要性について耳にすることがあります。職場に何も不満のない方、それはこれまでに先輩方が築き上げてきた努力の賜物です。その思いをしっかりと引き継ぎ、これからも維持し、今よりもっと良い職場環境を築いていってほしい。そして、いろんなことに疑問を持つてほしい。

職場に対して悩みのある方、一人で悩まないでください。仲間話に話し、みんなでの悩みを共有してください。必ずその思いにみんなは応えてくれます。そして、困っている人がいたら迷わず手を差し出してあげてください。そういった一人ひとりの思いが形となったものが協議会です。現状に満足せず、先輩たちが築いてきたものを絶やさないように、今よりもっと良い職場を作っていきます。そして、自分の大切な人に「一緒に働こうぜー」といえる職場をめざし、共に頑張りましょう。

西尾真貴(中国ブロック幹事)

最新の全消協活動を配信中です
ぜひ、アクセスや「いいね!」をお願いします。

全消協 ホームページ	全消協 公式Facebook	ユース部 公式Facebook	女性連絡会 公式Facebook
---------------	-------------------	--------------------	---------------------

次回、全消協の予定

県代表者会議 場所 東京・プラザエフ、自治労会館
2月7日(金)～8日(土)

全消協第3回ユースStep Upセミナー 場所 東京・自治労会館
3月11日(水)～12日(木)

第48回全国消防職員研究集会 場所 広島県広島市
6月12日(金)～13日(土)